



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道におけるツーリズムの課題と可能性：先住民族の歴史・文化・現在に関するアクセス手段としてのツーリズムの観点から
Author(s)	山村，高淑
Relation	Symposium on Tourism and Landscape in the North. Tuesday, 1 November, 2011. Hokkaido University Conference Hall. 国際シンポジウム「北方のツーリズムと景観」．2011年11月1日（火）．北海道大学学術交流会館 小講堂．札幌市．
Issue Date	2011-11-01
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/47369
Type	conference presentation
File Information	slide_yamamura.pdf, プレゼンテーション資料



北海道における ツーリズムの課題と可能性

先住民族の歴史・文化・現在に関する
アクセス手段としてのツーリズムの観点から

*Challenges and Potential of Tourism in Hokkaido
From the Viewpoints of Tourism as a Means of Access to
the History, Culture and Current Status of Indigenous People*

北海道大学観光学高等研究センター 山村高淑

Takayoshi YAMAMURA, Center for Advanced Tourism Studies, Hokkaido University

《発表の内容》

1. 北海道のツーリズムの
社会・文化的問題点
2. ツーリズムに関する
発想の転換の必要性
3. 社会・文化的に持続可能な
ツーリズムの構築に向けて

1. 北海道のツーリズムの 社会・文化的問題点

① 偏った地域イメージ

② 先住民族に対する無知と無関心

① 偏った地域イメージ

- ✓ 旅行商品、ガイドブックに溢れる
偏った地域イメージ
- ✓ あたかも人が住んでいなかったかのような「手付かずの大自然」といった表現（→事実誤認）
- ✓ 明治期以降の開拓の歴史のみを強調した「フロンティア精神」といった表現（→歴史の一部の過度の強調）

② 先住民族に対する無知と無関心

- ✓ 2008年「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」が衆参両院で採択
- ✓ 観光資源に関する議論・・・
自然景観や農業景観は確かに豊か→
こうした景観の多くは視覚的に評価→
歴史・文化的価値をより積極的に評価
する必要性。

世界遺産「知床」 (2005年登録)



SHIRETOKO, World Natural Heritage Site
designated in 2005



IUCN World Heritage Evaluation Report SHIRETOKO

May 2005

International Union for Conservation of Nature and
Natural Resources

5. ADDITIONAL INFORMATION

(追加情報)

5.4 Involvement of Indigenous Peoples

(先住民族の関与)

国際自然保護連合「技術評価報告書」2005年5月
(世界遺産登録に際し、IUCNがUNESCO世界遺産センターへ提出したもの)

Shiretoko was reverently called by the Ainu People as “sir.etok” (the end of mother earth) indicating the importance of this area for traditional inhabitants.

It is important, as reinforced in the management plan (page 214 of the nomination document) to “study the culture of the Ainu people and the traditional wisdom and skills of the local residents in order to determine the methods to preserve, manage and realize sustainable use of the natural environment”.

Accordingly it is considered important that representatives of the Ainu people, such as through the Hokkaido Utari (Ainu) Association, have the opportunity to be involved in the future management of the property, including in relation to the development of appropriate ecotourism activities which celebrate the traditional customs and uses of the nominated property.

■当たり前のことを伝える必要性

- ※ 北海道は先史時代より人が連綿と
住み続けてきた土地…文化の蓄積
- ※ 明治期以降の開拓の歴史は、あくま
でも北海道の歴史のごく一部
- ※ 現在の北海道文化の基層には、
和人移住以前の文化、
特にアイヌ文化が存在
- ※ ことさら開拓文化やロマンを語る観
光プロモーションやプログラムは歴
史を曲解して伝える危険性がある

■Landscapeに関して言えば；

単なる自然景観としてではなく、
「文化的景観」＝“Cultural Landscape”

として考えること。（UNESCO WHC, 1992）

- 人間の営みと自然との相互関係の歴史、その産物としての「景観」を捉える。
- ある土地に居住する人間の文化的活動・生活にかかわるあらゆる自然的・文化的要素、有形・無形の要素、動産・不動産を不可分なものとして捉えること。

- 土地や景観に付与された意味や記憶を復興し、伝え、継承すること。
→特に地名は極めて重要な要素。

こうした課題を解決していくためには、ツーリズムに関する発想の転換が必要である。

2. ツーリズムに関する 発想の転換の必要性

- ① 「ツーリズム」の再定義
- ② 先住民族が主体となった
ツーリズムの重要性
- ③ 遺産情報へのアクセスという
考え方

ICOMOS (International Council on Monuments and Sites) International Cultural Tourism Charter 1999

国際記念物遺跡会議「国際文化観光憲章」1999年

① 「ツーリズム」の再定義

ツーリズムは「最も重要な文化交流の手段」

Domestic and international tourism is one of the foremost vehicles of cultural exchange, providing personal experience of that which has survived from the past as well as the contemporary life and society of others. It can capture the economic benefits of cultural resources and is an important generator of economic development, when managed successfully.

(The Key Charter Concept #4)

ツーリズムとは、他者の現在の生活や社会、過去から引き継がれた文化遺産を個人的に経験する機会を提供する、「最も重要な文化交流の手段（the foremost vehicles for cultural exchange）」である。

② 先住民族が主体となった ツーリズムの重要性

Involve Host And Indigenous Communities
(Principle 4)

Host communities and indigenous peoples should be involved in planning for conservation and tourism.

ホストコミュニティと先住民族は、遺産保護と観光振興の主体に含まれるべきである。

4.1

The rights and interests of the host community, at regional and local levels, property owners and relevant indigenous peoples who may exercise traditional rights or responsibilities over their own land and its significant sites, should be respected. They should be involved in establishing goals, strategies, policies and protocols for the identification, conservation, management, presentation and interpretation of their heritage resources, cultural practices and contemporary cultural expressions, in the tourism context.

4.1

ホストコミュニティ、資産の所有者、土地ならびに重要な場所に対する伝統的権利と責任を有する先住民族の三者の、権利と利益が尊重されなければならない。これら三者は、遺産保護と観光振興の全プロセスにおいて（初期の段階から、管理・インタープリテーションの段階まで）の関与が保障されなければならない。

4.2

While the heritage of any specific place or region may have a universal dimension, the needs and wishes of some communities or indigenous peoples to restrict or manage physical, spiritual or intellectual access to certain cultural practices, knowledge, beliefs, activities, artefacts or sites should be respected.

4.2

地域社会や先住民族から、特定の慣習や知識、信仰、活動等に対する物理的・知的アクセスを制限・管理したい要請があった場合は、これを尊重しなければならない。

③ 遺産情報へのアクセス

A primary objective for managing heritage is to communicate its significance and need for its conservation to its host community and to visitors.

(The Charter Ethos)

文化遺産を管理（活用・公開）することの第一義的な目的は、その文化遺産の重要性和保護の必要性をホストコミュニティならびにビジター双方に理解してもらうことにある。
(憲章の基本精神)

Reasonable and well managed physical, intellectual and/or emotive access to heritage and cultural development is both a right and a privilege.

文化遺産ならびに文化史に対する、適切に管理された、物理的、知的、感性的アクセスは、基本的な人権に関わる事項である。

Unless there is public awareness and public support for cultural heritage places, the whole conservation process will be marginalised and not gain the critical levels of funding or public and political support so necessary for its survival.

(THE KEY CHARTER CONCEPTS)

もし双方、すなわち社会一般の理解が得られないのなら、そうした文化を継承することの財政支援や、社会的支持や政治的支持が得られない。

→つまり、
「ツーリズム振興」とは
文化継承に対する
「ファン・サポーターづくり」
である。

Access to significant features, values and characteristics, includes all form of access, including :

- 1) physical access, where the visitor experiences the place in person,
- 2) intellectual access, where the visitor or others learn about the place, without possibly ever actually visiting it and
- 3) emotive access where the sense of being there is felt, again even if a visit is never undertaken.

(Glossary)

文化遺産の価値・重要性に対するアクセスとは、以下の三つの様態を含む。
(憲章「用語集」による定義)

- 1) 物理的アクセス（現場での体験）
- 2) 知的アクセス（現場あるいは遠隔地での学習）
- 3) 感情的・感性的アクセス（現場あるいは遠隔地での親しみ・親近感・楽しさ）

こうした新たなツーリズムの概念を踏まえれば、今後、早急に検討しなければならない課題のひとつは：

先住民族が主体となって、先住民族の歴史・文化・現在に関する情報を、正確に、親しみが持てる形で、あらゆる人々にアクセス可能にする仕組みの構築。

「観光資源」ではなく「開発・管理主体」としての先住民族へ。

3. 社会・文化的に持続可能な ツーリズムの構築に向けて

※ 今後の重要な論点に関する
問題提起

- ① 誰が
 - ② 何を
 - ③ 誰に対して
 - ④ どのように
- 語っていくのか？

① 誰が？

- ✓ 複雑なStakeholderをどう考え、調整を行うか（先住民族社会、現在の住民、地権者、行政、業者…）
- ✓ 集住ではなく分散している民族社会が参画できるシステムの必要性（地域社会の考え方の転換が必要）
- ✓ 先住民族社会が自ら運営できるシステム構築に向けた関係者の協力体制…維持費用のかからない方法で。

② 何を？

- ✓ 国家や権威によって「付与される価値」から、「主体自らが語る価値」へ
 - ※ 「世界遺産」→「無形文化遺産」
 - ※ 「地元住民主導」の持つ意味
- ✓ ICT（情報通信技術）の発達により、マイノリティ社会が近代国民国家と対等なインタープリテーション主体になる可能性が飛躍的に向上
- ✓ 誰もが情報発信者に
→ Social Media と Social Tagging

③ 誰に対して

- ✓ 「ツーリストへ」では不十分。
- ✓ 少なくとも、地域社会、先住民族社会、旅行者（潜在的旅行者を含む）の三者を想定する必要性
- ✓ リピーターの確保と新規ファンの獲得。既存のファン、サポーターを大切にし、そのうえでファンコミュニティを広げていく工夫。
- ✓ 「既に関心の高い人」（深く）と
「興味関心の無い人」（広く）への対応。

④ どのように

- ✓ アクセス手法、ツーリズムのプロセスの多様化
→ 3つのアクセス様態のバランス
- ✓ 旅の前、旅の最中、旅の後における情報アクセスと発信のあり方
- ✓ 生身のガイドとの触れあい+
ICTの活用
- ✓ 技術は発達しても、中心は「人」の魅力。特に無形文化の持つ精神性。

FIN
Thank you for your attention.

Takayoshi Yamamura
Center for Advanced Tourism Studies, Hokkaido University